

〈異郷〉と〈故郷〉の ディアレクティク

総合文化研究 9 号
目次

2 巻頭言

6 カトゥッルスのアンビヴァレンス
—ウェーローナとローマの間で
岩崎務

書評

20 和歌における
故郷のディアレクティク
村尾誠一

144 谷川道子著
『ドイツ現代演劇の構図』
柳原孝敦

33 表象される〈半島〉
—『行人』と朝鮮統治
柴田勝二

153 ミラン・クンデラ著・西永良成訳
『カーテン——7 部構成の小説論』
谷川道子

51 ベルリン：〈異郷／異境〉への解体
—ベンヤミンの主題による三つの変奏
山口裕之

157 水林章著
『「カンディード」』
——〈戦争〉を前にした青年』
柴田勝二

72 124 番地・身体化する〈異郷〉
—トニ・モリスンの『ピラヴド』
荒このみ

108 〈新しい始まり〉の解釈
—サイードの『始まりの現象』と
マイケル・ギルモアの『心臓を貰かれて』
鬼木雄二

126 ゴンブローヴィチの小説的ユマニズム、
あるいは彼の『コスモス』にいか
にアプローチすべきか
ラキス・プロギディス／西永良成訳

-- 総合文化研究所 2005 年度活動報告
編集後記